



紙さえあれば幸せ 赤星たみこ

子供のころからいたずら書きが大好きでした。紙と鉛筆があれば楽しくて、何時間でも落書きをしていたんです。新聞のチラシの裏、包装紙の裏、家で使っている伝票の裏……。ありとあらゆる紙に、私はいつも絵を描いていました。

保育園を中退して（そう、今でいう登園拒否児だったんです、私）、二年ほど家でずっとごろごろしていたときも、絵を描き続けていました。そのとき使った紙は出金伝票の裏です。

当時、私の家は食料品店を営んでおり、出金伝票、入金伝票の冊子がたくさんありました。父が帳簿をつける机からその伝票をこっそり取ってきて、その裏に思

う存分絵を描きました。

手塚治虫、赤塚不二夫両先生が少女漫画を描いていた時期で、そのキャラクターをまねして描いたり、お姫様やお嫁さんを描いたり、ちよつと変わったところでは「やかん」を何度も描いた記憶があります。やかんって子供心にものがく複雑な形で、私の創作意欲を刺激したんでしょうねえ。

ある日、父が机の引き出しを開けて「ありや、出金伝票がのうなっちよる（なくなっている）。こんげ減ると、うちはお金がのうなっちよる、破産するぞ」と、私の方をちらちら見て言ったのを、私はすごく良く覚えてます。

「ウチがでんぴょうをいっばいつこたから、おかねがのうなるっচারか」と、ドキドキしました。

私はそれ以来びったりと伝票に落書きするのを止めました。高価な伝票を私がたくさん使ったからお金がなくなる、と思ったんですね。

でも、それ以降も私の落書き癖はなくならず、いろんな紙に落書きしました。



赤星たみこ（あかほし・たみこ）
●1957年宮崎県生まれ。79年、ギャグ漫画でデビュー。「恋はいつもアマンダピンク」で人気を博す。著書に『きれいに暮らす簡単石けん生活』『はいッ!ガンを治した赤星です』など多数。

ノートや教科書にも、少しでも空きスペースがあれば落書きしたり、テスト中でも裏に落書きしました。ああそついいえ、高校入試のときも問題用紙の裏に落書きしましたよ。余裕あるなあ、ですつて？いえ、余裕ではなく、トイレに行きたいのを紛らすためだったんじゃないかな。

紙に絵を描く。これは私にとって、絶対になくしたくない楽しみです。

今はイラストの仕事も紙を使わずパソコンでやるようになりました。いざれ漫画原稿もパソコンで描くようになるかもしれない。そのほうが原画管理も場所をとらず便利でしょう。

でも、趣味で、楽しみで絵を描くなら、やっぱり紙に手で描きたいですね。色を塗る時の緊張感、パソコンでは味わえないものです。紙と鉛筆と絵の具があれば、私はシアワセなんです。

PAPER COLUMN Vol.5

段ボールは包装資材のMVP!

軽いのに、折れにくく、ねじれにくい、しかも多少の衝撃なら、緩衝材として中のもを守ってくれる……そんな「段ボール」は包装資材として活躍しています。

段ボールは、波形にした「中しん」と呼ばれる紙を「ライナー」と呼ばれる平らな紙でサンドイッチ状にして作られています。この特殊な構造によって、「強さ」を発揮します。この「強さ」は、机やイスなど家具にも使われているほどです。

これら段ボールの原料は、古紙を100%

近く有効利用しています。リサイクルの優等生と言われているのも分かりますね。



◆次回は10月2日号、佐野史郎さんです。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>